

# 北海道建設新聞

2024年  
(令和6年)

2月7日  
水曜日

HOKKAIDO  
KENSETSU  
SHIMBUN.

発行所  
北海道建設新聞社  
〒060-0004札幌市中央区

## 役割分担明確化し時短

道央圏で土木、建築工事が受注する恵庭建設(本社)は、人材育成に力を入れている。本荘武則社長は「個々の能力を把握した上で適材適所に配置し任せている」と話す。グループ企業の強みを生かした人事交流を進める。2024年問題の鍵となる民間建築の適正工期設定では「建築確認申請の段階で担保されること」を減らすなどして効率化。一人一人が危機意識を持ち、助け合いながら進めた。民間建築現場については行政からの働き掛けにも期待し「例えば建築確認申請の段階で工期の週休2日が担保されることが望ましいのではないか」と提言する。同社の人材育成は、社員が目標の達成を実感しながら成長できる育成プログラムを導入。若手技術者育成にも取り組む。



### 恵庭建設

時間外労働の削減に向けて22年度に土木部と建築部がそれぞれ年間目標を設定して取り組み、建築部が達成した。各自が役割分担を明確にし、現場に行く回数も減らした。中澤典子さんは「武田さんは北海学園大学文学部英米文化学科、中澤

## 民間建築、週休2日の担保が必要



さんは小樽商大商学部企業法学科を23年3月に卒業した。建設業を選んだ理由を、武田さんは「体を動かして地域に貢献できる。人々の生活の基盤を支えているから」と中澤さんは「人の役に立ちたい。会社の雰囲気も

は「女性の新人2人を迎えるのは初めて。まずは現場に慣れてほしい」と期待を胸に見守る。武ダホールディングス(本社・札幌)傘下の企業としてグループ内で人事交流もする。本荘社長は「定期的に開く社長会の中で『こういう人材が欲しい』などの情報交換をする。保育事業など異業種もあり相乗効果を実感している」と話す。創業60年以上の歴史がある同社。昨年は隣接する千歳市内でラピダス(本社・東京)の次世代半導体工場が着工した。関連する企業の施設や住宅などの建設需要に対する期待もある。「初代と2代目が地域に根差した基盤をしっかりと築いてくれた」。3代目社長として感謝し、社員と共に成長する企業づくりを進める。(建設・行政部 星野貴俊 記者)